

神戸大学保健学研究科リカレント事業 カリキュラムと日程 \*対面・オンラインライブ欠席講義は後日アーカイブ受講可能です。

月	日	曜日	時間	受講方法	講義時間 (時間)	講義カテゴリー	講演テーマ	講師	内容
6月	上旬 (予定)	火/木	18時30分 /各自で視聴 ※開講までに確定	オンラインライブ /オンデマンド	1	フォーマル ケア	重層支援総論	兵庫県 担当者 司会：前重准教授	現在の高齢者・障がい者支援体制、フォーマルケア、インフォーマルケアについて、サービスの内容とメリット、そして今後の課題などを共有して、必要となる研究や事業を理解することを目的に講義を進めます。
	上旬 (予定)	火/木	18時30分 /各自で視聴 ※開講までに確定	オンラインライブ /オンデマンド	1		重層支援総論	神戸市 担当者 司会：園田准教授	
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		認知症	保健学研究科 古和教授	現在の治療法では、認知機能の悪化そのものを止めることはできず、次世代の薬も効果が限定的のみです。薬を用いない「予防」研究としてFinger研究を紹介し、その成果として運動、脳トレ、栄養管理、コミュニケーションなど、生活習慣の改善が効果的であることを紹介しています。その社会実装として神戸大学が開発したコグニケアを紹介しています。
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		薬剤管理	保健学研究科 安田教授	高齢者の特有の疾病、症状を管理する薬剤管理を幅広く学習します。①ポリファーマシーとは（知っておきたい基本の部分）②ポリファーマシーが高齢者の生活にどう影響するか③ポリファーマシーが認知症高齢者の生活にどう影響するか④高齢者が服用する薬の副作用（認知症高齢者のBPSD増長）
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		生理学	保健学研究科 石田教授	高齢者の特有の疾病、症状を管理する生理学的情報と検査を幅広く学習します。①体温、血圧、脈拍を測る意味と視点②ムセ込み、汗、排尿の色等から何を読み取れるか③高齢者の疾患（典型的な急変と対応）④排便テストスケール（排便色、形状）の意味⑤他
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		うつ・痛み	保健学研究科 園田准教授	加齢に伴う体の痛みが活動量低下やストレスを引き起こし、認知機能低下やうつ病となるケースも少なくありません。身体的・認知的・社会的フレイルとして、高齢者のうつ病と認知症の発病のきっかけや症状の違いを理解し、ケア方法について学習します。また、慢性的痛みでは、脳やうつが密接に関与しているため、心理社会的側面のアプローチについて学習します。
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		認知症・うつ・痛みの評価	保健学研究科 園田准教授	高齢者の認知症・うつ・痛みにおいて、高齢者総合機能評価や生物心理社会モデルに基づくアセスメントといった包括的評価が重要です。身体機能、認知機能、心理社会的側面に対する主要な検査について学習します。
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		フレイル①	保健学研究科 山口准教授	高齢者は、加齢に伴う身体機能低下に糖尿病や脂質異常症等の代謝機能低下が伴うことが多く、それに準じて認知症、うつ等の精神・知的機能障害だけでなく、サルコペニア、難治性皮膚潰瘍等の運動器障害を伴います。これらのフレイル状態に対する適切なケアと機能障害の評価方法を学習します。フレイル①で骨格筋、フレイル②で皮膚を主に講義します。
	各自で視聴			オンデマンド	1.5		フレイル②	保健学研究科 前重准教授	
	26日	木	18時30分	オンラインライブ	0.5			フリーディスカッション	実行委員
7月	1日	火	18時30分	オンラインライブ	1.5	インフォー マルケアと IoT・ICT	就労支援	JR西日本アイウィル 横峯様 司会：担当者	一般就労と福祉的就労の違いや法定雇用率の動向、障害者の平均収入額などを中心に就労支援の制度内容や障害者雇用の実態を学びます。
	3日	木	18時30分	オンラインライブ	1.5		旅行支援	オーティ旅行支援 戸高様 司会：担当者	旅行の支援に必要な知識と技術（利用者能力評価、HVIA調査方法、福祉用具適用、入浴介助方法等）と旅行支援の効果について学びます。
	7月中に各自で視聴 ※オンラインに変更の可能性あり			オンデマンド	1.5		ロボティクスケア	ロボケアセンター 安永様 司会：担当者	装着型サイボグを中心としたロボティクスケアの活用方法と意義を学習します。
	19日	土	16時予定	対面・オンデマンド	1.5		VR・メタバースケア	保健学研究科 園田准教授	医療職者の患者対応学習のためのVR・メタバース、および高齢者のリハビリテーション・QOL向上手段としてのVR・メタバースを提供して、方法と意義を学習します。
	19日	土	VR・メタバースケア 講義後 ※終了後懇親会	対面・オンデマンド	1.5		IoT・ICT実演①	保健学研究科 前重准教授 中山助教	各受講者が施設内でのIoT技術を使ったデジタル化、およびデータベースを活用した情報統合（ICT）の方法を学習し、実践します。ウェアラブルバンドを用いた動作解析技術を体験、学習します。
	7月中に各自で視聴			オンデマンド	1		IoT・ICT総論	大分岡病院 松本医師	患者情報、実施介入、測定結果をデジタル管理する方法、およびそのデジタル情報を施設間で共有する方法とセキュリティ管理上の注意点を学びます。
	22日	火	18時30分	オンラインライブ	1.5		IoT・ICT実演②	保健学研究科 前重准教授 中山助教	各受講者が施設内でのIoT技術を使ったデジタル化、およびデータベースを活用した情報統合（ICT）の方法を学習し、実践します。スマートウォッチを用いた身体機能、日常生活分析（睡眠、ストレス含む）を行います。
	24日	木	18時30分	オンラインライブ	1.5		IoT・ICT実演③	保健学研究科 園田准教授 前重准教授	IoT技術を使ったデジタルデータの解析方法を学習します。フリー統計ソフト（EZR）を使用したリアルタイム学習も実施します。
	29日	火	18時30分	オンラインライブ	0.5			フリーディスカッション	実行委員

8月	各自で視聴	オンデマンド	1.5	データサイエンス・AI基礎	社会の変化とDS・AI活用①	数理・データサイエンスセンター	データサイエンス（DS）やAIが必要となる社会的背景や、近年の情報通信技術の発展について学んだ後、医療分野、製造業、マーケティング業における多変量統計解析、深層強化学習、逆強化学習等の活用事例を通して、DSやAIがどのような技術であるかだけでなく、DSやAIで実現可能なことについて習得します。これにより、受講者自身がDXを実現するための技術選定に必要な知識を獲得します。
	各自で視聴	オンデマンド	1.5		社会の変化とDS・AI活用②	数理・データサイエンスセンター	
	各自で視聴	オンデマンド	1.5		社会の変化とDS・AI活用③	数理・データサイエンスセンター	
	各自で視聴	オンデマンド	1.5		データ・AI活用の留意事項	数理・データサイエンスセンター	高齢者事業所・自治体・企業で扱うデータは利用者や顧客の個人情報等の機密情報を含む機微なデータを扱うことが必須となるため、個人情報保護のために必要となる匿名加工、および、情報セキュリティに関する基礎知識を習得します。
	各自で視聴	オンデマンド	1.5		データリテラシー①	数理・データサイエンスセンター	DS・AIにおいて基本的な考え方として必要となる回帰分析などの統計の基礎を学び、データから仮説を立てる際に必要となる統計リテラシーを身に付けます。各項目の演習では、データ解析演習やインターネットを用いた調査実習を取り入れることにより、受講者の理解を深めます。
	各自で視聴	オンデマンド	1.5		データリテラシー②	数理・データサイエンスセンター	
	各自で視聴	オンデマンド	1.5		データリテラシー③	数理・データサイエンスセンター	
	各自で視聴	オンデマンド	1		最終試験	数理・データサイエンスセンター	受講者の理解を確認し、不正解であった部分は個別に理解を得るまで指導します。
9-2月	担当者と調整	対面・オンライン ライブハイブリッド	30	施設内演	リサーチトピック検討/データ収集とIoT・ICTシステム入力/IoT・ICT情報統合/数理サイエンス解析/プレゼンテーション	実行委員 学生研究支援員 院生指導教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症、うつ、痛み、フレイル等を呈する患者・高齢者を対象とし、それらの予測・増悪因子、あるいはフォーマルケア・インフォーマルケアの介入効果に関するトピックを施設の高齢者背景等を考慮して選択します。(4h)</li> <li>・上記のトピックに関連するデータについて、紙ベース情報はデジタル化し、すでにデジタル化されている情報についても研究用シート、フォームへの入力を行います。あるいは新規導入IoTツールを活用して測定を行います。①入力方法の学修②入力③修正④確認/完成のプロセスを基本とします。(8h)</li> <li>・上記の数理解析用に整理された情報を施設間（受講者間）で学修したICTデータベースを用いて情報を共有し、統合・整理します。①入力方法の学修と情報の共有②確認/完成のプロセスを基本とします。(4h)</li> <li>・症状・障害に影響を与える独立因子の解析を単変量解析・多変量解析にて分析します。網羅的な単変量解析により候補因子を割り出し、それらをサンプルサイズを考慮して許容される因子数で多変量解析を行います。必要に応じてROC曲線等による妥当性、信頼性検討を実施します。予備的検証より本解析方法を決定し、その後本解析、報告、修正を行います。(10h)</li> <li>・発表会を開催し、成果のプレゼンテーションおよび他の受講者との活発なディスカッションを行います。(4h)</li> </ul>